

市長室から（9月15日記）

一步一步前進します

風が冷たく感じられる季節となりましたが、市民の皆さんはいかがお過ごしでしょうか。

今年は、台風が北海道を直撃することが多く全道各地に甚大な被害を残しましたが、当市では警戒態勢を指示したものの、大きな被害は無く何よりの結果でした。

市内では昔に比べると、すっかり大規模な水害は無くなったように感じますが、常に安心できる状態ではないと私は考えています。

近年では、全国的に集中豪雨が頻発しています。市内でも数カ所にわたって心配される地区があるので、台風が近づくたびに警戒態勢をとっていますが、市民の皆さんには常日頃から非常時の備えをよろしくお願いします。

こうした雨による被害を無くすために取り組んでいるのが、幾春別川総合開発事業の桂沢ダムの改修です。「新桂沢ダム」の工事が大変遅れていましたが、国への要望を繰り返した結果、今年から大幅に予算がつき本格的にダム本体の工事に入ることとなりました。また「三笠ぼんべつダム」の一日も早い完成についてもお願いしてきたところです。

さて、現在取り組んでいる事業では、将来のまちづくりに向けて進めているものがいくつかありますが、中でも「三笠高校」の取り組みはマスコミにも頻繁に取り上げられ、すっかり有名校の仲間入りをした状況にあります。

市では高校生レストランの建設計画を進めていますが、基本構想を昨年度策定しましたので、今年の実設計画に取り組んでおり、具体的な施設の内容を策定することとなっています。

オープン時期は、平成30年の夏ころを目指していますが、高校関係者などとも協議し、可能な限りの意見を取り入れ、皆さんにも自慢していただける施設とし、市内外を問わず多くのかたがたに来ていただけるよう取り組みますので、ご期待ください。

また、幾春別地区で取り組んでいる「石炭の地下ガス化」は、ようやく野外での実験を国に許可していただける見通しとなり、いよいよ地面に穴を開け、実際の炭層に火をつけて実験できる運びとなりました。

この技術が認められれば、三笠だけではなく旧産炭地にとっては、まち再生の道が大きく開かれることになると思っています。

この取り組みは、一朝一夕にできるものではなく、これからも乗り越えるべき課題は多くあると考えています。着実に一步一步前進することが大事だと思っていますので、市民の皆さんのご理解をお願いいたします。

そのほか、三笠では「イオン農場をはじめとした農業の活性化」や「ジオパーク」、「中心市街地の再整備」や「移住・定住施策」にも取り組んでおり、新しいまちづくりに向かって歩を進めたいと考えています。

現状におけるまちの課題としては、依然として解決できていない「豚の臭いの問題」ですが、各地区連町会長さんと事業者との話し合いの場を設定し、逐次問題点を協議している現状にあります。「市立病院の運営問題」は、近く皆さんからご意見をお聞きするための懇談会を開催したいと考えています。

多くの皆さんのご意見やお知恵をいただき、解決へ向けて努力していきたいと考えていますので、ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

（広報みかさ平成28年10月号に掲載したものです。）